令和６年１１月６日

小野市議会議長　髙坂純子　様

前　田　昌　宏

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

１　派遣日　　令和 6 年 10 月 9 日（水）～　10 月 10 日（木）

２　派遣議員

前田光教、小林千津子、山本悟朗、河島三奈、前田昌宏

３　派遣先

全国市議会議長会研究フォーラム　岩手県民会館　トーサイクラシックホール岩手

４　調査結果

1 日目【10 月 9 日】

１．基調講演　人口減少社会における地域の未来図　（13 時 20 分～ ）
第 99 代内閣総理大臣　菅義偉（国会日程の都合により欠席、ビデオによる挨拶）
（内容）
地方の活力がこの国の活力となる。
このことを推進するために、以下の 3 点の施策を実行した。

①ふるさと納税
2008 年　81 億円
2023 年　1 兆円を超える
②インバウンド増加施策
2023 年　訪日外国人数 2,500 万人　消費額 5.3 兆円
③農産品の輸出拡大

地方議会の議員にはその土地にあった施策の展開により、地方の活力を増すように取り組んでほしい。

２．追加講演　地方議会議員の厚生年金加入について　（13 時 25 分～）

全国市議会議長会　事務総長
全国市議会議長会　副会長　畑中優周
全国市議会議長会　会長　坊恭寿

（内容）
議員年金への取り組みの経緯を説明
各市議会での意見書採択の依頼
決議文でも良いから採択してほしい。

他の職業と兼職がない場合、地方議員は厚生年金に加入できない
→厚生年金の加入は処遇改善（お手盛り）ではなく、議員のなり手不足への対策

意見書の採択状況（令和 6 年 7 月時点）
市議会　　５９．１％（令和 5 年からの１年で１０％改善）
町村議会　７６．２％

３．パネルディスカッション　地方議会の課題と主権者教育（14 時 20 分～）

コーディネーター	静岡大学教授	井柳　美紀
パネリスト	法政大学教授	土山希実枝
	一般社団法人代表理事	越智　大貴
	読売新聞東京本社	渡辺　嘉久
	盛岡市議会議長	遠藤　政幸

①静岡大学教授　井柳美紀

地方議会の課題
・投票率の低下
・無投票当選の増加
・議員の性別や年齢の偏り
議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進する
出前講座や模擬議会などを行い、議会自らが主権者教育を講ずる

平成 27 年文科省通知で、昭和 44 年（学生運動時代）の通知を改めた

昭和 44 年当時（抜粋）
現実の政治的事象は教師自身も教材として理解し客観的に取り扱うことは困難
→教師個人の見解や主義主張が入り込む恐れがあり慎重に取り扱うこと
↓
平成 27 年通知（抜粋）
現実の具体的な政治的事象も取扱い、生徒が自らの判断で権利を行使できるよう
具体的かつ実践的な指導を行うこと

地方議会の主権者教育は何が重要か？　誰がやるのか？
議会が積極的にやることに躊躇する先生もいる
事務局の体制はどうか？

②法政大学教授　土山希実枝

誰の為の高校生議会か？
高校生議会をもって議会が主権者教育と称することはやめるべき
こう考える根拠として次の内容を挙げていた
※手法は教育にあたいする内容か？
※すべての子ども・若者に同じ機会を提供できているか？
※2 元代表制の一翼が主権者を教育していいの？

③一般社団法人代表理事　越智大貴

〇若者は、政治や社会をどうとらえているのか？
アンケート結果から
若者は、政治に関心がないから選挙に行かない、というより
どうせ変わらないから選挙に行かない、ことが分かる。
一方で、社会のために役立ちたいと思っている
【議会の役割】
交流の機会を増やし、「自分の意見が受け入れてもらえる」と思ったり、
「自分のアイデアが反映されるかも」と感じられる機会を増やす

〇学校現場における主権者教育の現状
学校での主権者教育は、選挙に関することや模擬投票体験が中心
その背景には、「政治的中立」と「授業準備」というハードルがある

【議会の役割】
学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくる

○１３年間の主権者教育の取り組みについて
大切なことは「自分たちの行動で国や社会を変えられる」感覚を持つこと
この感覚を持つための大事なポイント
「社会をつくる」という家庭の中に、こどもや若者主導の場面があること

③読売新聞東京本社　渡辺嘉久

情報を得る前後で、投票先が異なる
→情報が未来を左右する。
未来を決めるのに必要な情報を持っているか？
その情報は正しいか？

投票先に迷ったとき
→「こうありたい」未来を実現してくれそうな人を選びなさい

何が投票を促すのか？
→投票で政治が変えられると考えるかどうか
★投票に行く、と回答した人の 71%が政治は変えられると回答
一方、行かないと回答した人では 36%にとどまる。
→学問的な知識だけではなく、体験を持たせることが大切、

政治とつながるとは　→　未来とつながる　→自分の未来を創造する
※「政治」は「未来」。「時間は未来から流れてくる」

議会の主権者教育
学校ではなく地域の将来を考えるところのワークをする
年齢層によって政治に求めるものが違う。
違うことを知ること、認め合うことも重要
争点があって、議論があって、決める　→これが議会

④盛岡市議会議長　遠藤政幸

盛岡市議会の主権者教育の取組
高校生議会の開催
次代を担う高校生が、選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高めること
地方議会の主権者教育についての議論

【質疑】
井柳　地方議会選挙では争点が見えてこない
　　学校の中立性との兼ね合いはどうか
　　事務局を含めたマンパワーは足りるか？
土山　未来の市民の育成。
　　議会は議論する場所なので話し合う機会が大切。
　　固有の意見が尊重されず正しい答えを探す事を求められて育っている。
遠藤　もりおか mirai おでかけミーティング
　　議員が大学に出向き、テーマを定めてディスカッションを実施
渡辺　議員は町に出て色んな考えを学ぶことが大事。
　　「変わった」を実感させる事は大切
　　高校生議会のマニュアルを作って全国でやれば、、、
越智　議論して合意形成が生まれて何かが変わる？変わるかも？の体験が大事

１日目【10 月 10 日】

【課題討議】　「主権者教育の取り組み報告」

■コーディネーター
　①東北大学　准教授　川村和徳
■事例報告者
　②伊那市議会前議長　白鳥敏明
　③四日市市議会議員　諸岡　覚
　④山鹿市議会議長　　服部香代

①東北大学准教授 河村 和徳

地方議会と主権者教育
大人になるプロセスの変化
→以前は大人や社会に触れながら成長していたが今はその機会が減少
理想：多様な意見があることを理解 実践の場から学ぶ機会
現実：正解を教えよう、学ぼうとする姿勢に問題があるのでは？
右肩下がりの地域では、声をあげるか出ていくしかない（アルバート ハートマン）
→出ていかないためには何か行動を起こす必要がある。

②伊那市議会前議長　白鳥敏明
高校生の議会傍聴と意見交換会の取組み　(市内の 4 高全てが対象)

※平成 30 年の市議会選挙が無投票になった危機感を受け、
全議員参加の「魅力ある議会検討会」を設置
令和 6 年には高校生からの請願を受理
他にも意見交換会で生徒から出された意見を市議会として検討
→当局に要望
→取組の結果をフィードバック

③四日市市議会議員　諸岡　覚
主権者教育の取組
ワイ！ワイ！GIKAI
従来から議会報告会とシティミーティングを実施してきたがマンネリ化
令和 4 年度から 4 つある常任委員会がそれぞれ若年層との意見交換会を開催
中学校、高校、大学、商工会議所青年部など
高校生議会
テーマごとの委員会に分かれ意見交換を行い、本会議場で意見書の採択を行う。

④山鹿市議会議長 服部 香代
なりたい職業やランキングベスト 10 入りを目指して
小学校でシチズンシップ教室を実施
・市議会について知る
・議員の仕事を理解する
・選挙の意義や、投票の大切さがわかる
「ポリポリ村のみんしゅしゅぎ」を題材にした。

質疑

■質問
主権者教育の実践から見えた成果と課題

（白鳥議員）
→白鳥 高校生からさまざまな意見・提案が生まれてきた。
議会も高校生のことを考えるようになった。
高校生から請願 「子育て環境改善」
（諸岡議員）
→議員個々のキャラクターに触れて、色んな議員がいる事を高校生が知る。
有権者ではない留学生との交流も為になった。
若者を層として捉えるのではなく、個々と触れ合うことで意見が出てくるし、
教育にも繋がる。
（服部議長）

45 分の授業で民主主義を伝えるのは難しい。
こどもたちは、強い意見が出てくるとそれに引っ張られる傾向。
議員の仕事は議員にしか語れない。
こどもたちは議員に会ったこと親に伝える。→親の投票行動に繋がる。

≪所 感≫

我が国で主権者教育の必要性が言われ始めたのは、2015 年の公職選挙法の改正（選挙権者の年齢が 20 歳以上から 18 歳以上へ繰り下げ）以降で歴史が浅い。このため主権者教育については、これが正しいという考え方が確立されておらず、試行錯誤が続けられている状況と理解した。

今回のフォーラムを通して感じたことは、主権者教育の目指すことは「政治によって世の中は変えられる」ことを教育や体験を通じて受講者に感じてもらうことであると感じた。選挙の投票に関するアンケートで、「政治によって世の中は変えられる」と回答した人は「変えられない」と回答した人よりも 2 倍投票率が高かったという結果は、投票率と政治への期待が相関することを明快に示していると考える。

法政大学の土山教授から、「高校生議会をもって議会が主権者教育と称することはやめるべき」の指摘があった。確かに、高校生が議場で出来上がっている原稿を読み上げるだけの模擬議会ではこの目的を達することが難しい。単に議場で文章を読み上げるだけの体験ではなく、もう一工夫の施策が必要となる。このもう一工夫の施策について、今後、調査研究を積んでいきたいと感じた。